

鹿児島大学病院 消化器外科、乳腺・甲状腺外科 で

甲状腺疾患あるいは副甲状腺疾患の治療を受けた患者さんへ

( 臨床研究に関する情報 )

鹿児島大学病院消化器外科、乳腺・甲状腺外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

副甲状腺の自家蛍光を利用した新しい術中検出法に関する研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 消化器外科、乳腺・甲状腺外科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 消化器外科 教授 夏越祥次

【研究の目的】

副甲状腺は体内のカルシウム濃度を一定に保つ重要な内分泌器官です。甲状腺疾患、副甲状腺疾患においては、手術中に副甲状腺を見つけて温存したり、あるいは確実に切除する必要があります。しかし副甲状腺は小さく、色調も周囲組織に比較的近いため、その確実な同定は簡単ではありません。現行では経験のある外科医によって疑わしい組織を摘出し、それを術中迅速病理診断で確認するという方法をいますが、より簡便で客観性のある方法が求

められています。

近年、副甲状腺が赤外領域の自家蛍光を持つことが新たに発見されました。このことを利用して、赤外蛍光検出器を用いて副甲状腺の簡便な術中検出法を開発することが本研究の目的です。また、副甲状腺がもつ自家蛍光の原因物質の検索を行います。

## 【研究の方法】

副甲状腺組織間あるいは周囲組織との自家蛍光のデータに基づき、自家蛍光に関連する遺伝子や蛋白質を免疫染色や DNA マイクロアレイなどの手法を用いて探索し、蛍光強度との関連から自家蛍光を生み出す原因物質の同定を試みます。

### ●対象になる患者さん

この研究は、平成元年 1 月 1 日～平成 28 年 6 月 16 日に鹿児島大学病院消化器外科、乳腺・甲状腺外科を受診され、甲状腺疾患（甲状腺癌、甲状腺腫瘍、バセドウ病など）あるいは副甲状腺（副甲状腺腫瘍、二次性副甲状腺機能亢進症など）と診断され、手術を受けた患者さんを対象にしています。

### ●診療録（カルテ）から利用する情報

この研究では、カルテ情報から年齢、病歴、家族歴、血液検査結果、画像検査結果、病理検査結果などについて診療記録を使用します。

## 【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

## 【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 消化器・乳腺  
甲状腺外科学分野の研究費（使途特定寄付金）で実施します。

この研究に関して企業等からの寄付は受けていませんので、利害  
の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご  
連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術  
発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族  
からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があ  
ります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 乳腺・甲状腺外科

医員 新田吉陽

電話 099-275-5361      FAX 099-265-7426